

※本ニュースリリースは株式会社パスコと一般財団法人リモート・センシング技術センターが共同で配信しています。重複して配信されることがありますが、ご了承願います。

2014年11月25日

陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) データ等の配布開始について

株式会社パスコ
一般財団法人リモート・センシング技術センター

株式会社パスコ(以下:パスコ)と一般財団法人リモート・センシング技術センター(以下:RESTEC)は、陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)データ及び陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS/PRISM)データ*1(以下:ALOS-2データ等)について2014年11月25日より共同で配布を開始します。

今回提供を開始するALOS-2データ等は、自然災害の迅速かつ詳しい状況把握に加え、地盤沈下の状況把握、海水監視や資源探査など、さまざまな用途に活用することが出来るのが特長です。本事業は、両者が(独)宇宙航空研究開発機構(以下:JAXA)から受託したALOS-2の運用及び観測データの一般配布を行う事業の一環で実施するものであり、ALOS-2データ等の利用拡大に取り組んでいきます。

【背景】

本事業は、(独)宇宙航空研究開発機構(以下:JAXA)より、ALOS-2の運用及びALOS-2データ等の一般配布に係る事業を共同企業体としてRESTEC及びパスコが受託し行うものであり、RESTECは、代表機関として同全体のとりまとめ及びALOS-2のミッション運用を担当し、株式会社宇宙技術開発が衛星管制を担当します。また、パスコはデータ販売事業者としてALOS-2等データの配布をRESTECと共同して担当します。

【ALOS-2データの特長】

〈高解像度の観測〉

ALOS-2(PALSAR-2)は、スポットライトモードで1m×3mの分解能を有しており、ALOS(PALSAR)と比べてより高解像度な観測をすることができます。また、SAR(合成開口レーダ)であるため、昼夜天候によらず、観測することができます。これにより、世界で頻発する洪水や火山等の自然災害の被害状況等を詳しく把握することができます。(図1:ALOS/PALSARとALOS-2/PALSAR-2の観測画像の比較)

〈広範囲の観測及び観測頻度の向上〉

ALOS-2は、衛星の姿勢を傾けることにより、左右観測を可能とし、ALOSと比べ、観測可能領域が3倍である2,320kmになり、回帰日数が14日と大幅に短くなったこと等により、迅速な観測が可能になりました。

【ALOS-2のデータ配布方法について】

パスコとRESTECは、両社および両者の国内外の代理店を通じ、ALOS-2データ等の配布を行います。

<https://satpf.jp/>

※注1 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS, エイロス):2006年1月から2011年5月まで運用された日本の地球観測衛星で、高精細な全世界観測を実施し、地図作成・更新、災害状況把握、地域環境観測等に貢献しました。本事業においてALOSに搭載されたパナクロマチック立体視センサ(PRISM, プリズム)のデータを販売します。

【本件に関するお問い合わせ先】

■ 報道関係のお問い合わせ先

株式会社パスコ
広報部
永塚 和彦、後藤 智典
Tel :03-3715-1048

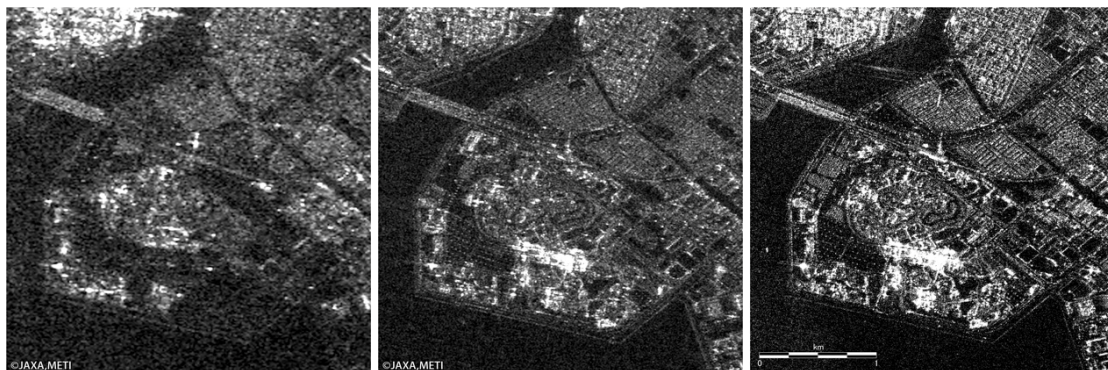
一般財団法人 リモート・センシング技術センター
広報室
金澤 聡子
Tel:03-6435-6710

■ 製品・サービスに関するお問い合わせ先

株式会社パスコ
衛星事業部営業部小林 孝、古賀 小百合
Tel:03-5318-1090

一般財団法人 リモート・センシング技術センター
ソリューション事業部マーケティング課
小野敦、館下由美子
Tel:03-6435-6791、6774

[図1]:ALOS/PALSARとALOS-2/PALSAR-2の観測画像の比較



「ふよう1号」 SAR
1992年4月21日
(分解能約18m)

「だいち」 PALSAR
2006年4月27日
(分解能約10m)

「だいち2号」 PALSAR-2
2014年6月19日
(分解能約3m)